

1 総合的な学習の時間における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 全体計画の作成と見直しに当たって

① 各学校において定める目標

- 第1の目標を構成する
(ア) から (オ) の5つの要素を踏まえる。
- 地域の特性や学校や児童の実態、特色を生かし、各学校の創意工夫ある学習が展開されるように設定する。

表1 総合的な学習の時間 第1 目標

(ア)横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、
(イ)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、
(ウ)学び方やものの考え方を身に付け、
(エ)問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、
(オ)自己の生き方を考えることができるようにする。

具体化

(例) ①地域の様々な出来事や暮らしについて(ア)、自ら課題を見付け(イ)、問題の解決に積極的に取り組もうとする(ウ)。

付加

②地域の人とのかかわりを通して(ア)、地域を大切にすることを育て、(エ)、自分の生き方を考えようとする(オ)。

<文科省指導資料 p67-68 参照>

② 育てようとする資質や能力及び態度

- 各学校の児童の実態を踏まえ、表2の3つの視点に配慮して設定する。

表2 育てようとする資質・能力及び態度の例 <文科省指導資料 p70 参照>

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
児童が横断的・総合的な学習や探究的な学習を主体的、創造的に進めていくために必要な資質や能力及び態度に関する視点	児童自身の生活や行為の在り方、あるいは自己理解や自己省察に必要な資質や能力及び態度に関する視点	他者との協同や社会とのかかわりに必要な資質や能力及び態度に関する視点
例 ○ 課題を設定する力 ○ 情報を収集する力 ○ 思考・分析する力 など	例 ○ 将来を展望する力 ○ 計画し実行する力 ○ 自己理解 など	例 ○ 社会に参画する力 ○ 協同して解決する力 ○ 他者理解 など

③ 各学校において定める内容

- 内容として、各学校の目標の実現のためにふさわしい学習課題を設定する。
- 学習課題は、どんな対象(学習対象)と関わり、その対象との関わりを通して何を学ぶのか(学習事項)を示すものである。以下の3つの課題例を大いに参考にする。

- ① 国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的・総合的な課題
- ② 児童の興味・関心に基づく課題・・・例)ものづくり、生命、キャリア
- ③ 地域や学校の特色に応じた課題・・・例)町づくり、伝統文化、防災

- 学習課題は、学習対象や学習事項によって、具体的・分析的に示すことが考えられる。

表3 学習課題を具体的・分析的に示した例 <文科省指導資料 p72-73 参照>

学習課題	学習対象	学習事項
③地域や学校の特色に応じた課題	伝統文化	・地域の伝統・文化の特徴 ・継承に力を注ぐ人の思い・願い ・伝統を守り、受け継ぐことの意義
	防災	・防災意識の大切さ ・人々の安全を守る社会の仕組みと取組 ・自助と共助の大切さ

小学校 総合的な学習の時間

④ 学習活動

- 内容との関わりにおいて、児童が行う学習活動を示す。
- 児童の探究的な学習の過程における学習活動の一連のまとまりとして、「単元」の指導計画を作成する。

(2) 単元計画の作成に当たって

単元計画は、「③内容」をどのように学び、「②育てようとする資質・能力及び態度」をどのように育成するかを、学習活動とそのプロセスで示したものである。

① 単元計画作成の手順 <文科省指導資料 p86-95 参照>

- 全体計画を踏まえる（目標・育てようとする資質・能力及び態度・内容を踏まえる）
- 以下の3つの視点から構想する
 - ・児童の実態（興味・関心）
 - ・教師の願い（育てたい力や態度、学んでほしいこと）
 - ・教材の特性（価値ある学習に結びつくか、探究的な学習を通すことが可能かなど）
- 探究的な学習として単元が展開されるかイメージを思い描く
探究的な学習のプロセス：**【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】**
- 単元計画を具体的に書き表す

② 単元全体を探究的な学習にするために

- 実生活や実社会にある問題の解決に取り組むことができるように単元を構想する。
- 自分事の問題や課題の解決に向かって主体性を発揮できるように単元を展開する。
- 各教科で身に付けた知識・技能を活用して課題の解決に取り組める活動を設定する。
- 問題の解決につながる体験活動と言語活動を取り入れる。
- 単元を通して、自己の生き方を考えることができるようにする。

(3) 評価の観点及び評価規準の設定に当たって

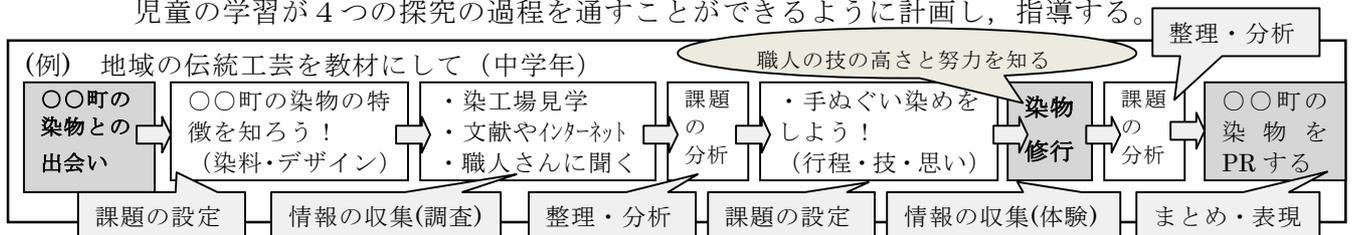
- 評価の観点を設定するに当たっては、3つの例示を参考にする。
 - 総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点
 - 育てたい資質・能力及び態度の3つの視点を踏まえた観点
 - 各教科の評価の観点との関連を明確にした観点
- 各単元において評価規準を設定する

場合には、児童が取り組む学習活動との関連において、評価の各観点に即して期待される児童の姿を想定し、具体的に設定する。<参考資料：総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校）H23.7月 国政研教育課程研究センター>

2 各学校における指導上の留意事項

(1) 探究的な学習の充実に向けて

児童の学習が4つの探究の過程を通すことができるように計画し、指導する。



(2) 【課題の設定】と【整理・分析】の場面の充実

- 課題の設定においては児童の内なる問いを顕在化させ、「何のために学ぶのか」という目的意識を持つことができるように、教師の指導性を発揮する。
- 整理・分析においては「考えなさい」、「分析しなさい」ではできない。児童にどのような思考を行ってほしいのかによって、適切な思考のツールを与えることも大切である。

<参考資料：今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 H22.11月 文科省>